■竹中半兵衛(重治) 戦国武将。豊臣秀吉に仕え、黒田官兵衛と並ぶ、名軍師の名をほしいままにするも早逝、伝説化した。

たけなかはんべえ(しげはる)

・ ・ ・ ・ ・ 1544= 美濃国大野郡で、美濃斎藤氏の家臣の大御堂城主竹中重元の子に生まれる。

ザビエル来日1549= 5歳：

川中島の戦始1553= 9歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1554=10歳：美濃国国主斎藤道三が隠居し、嫡男義龍に後を継がせたが、やがて、愛する妾腹の子を立てようとしたため、父子の関係が険悪となり、

・ ・ ・ ・ ・ 1556=12歳：両者が対峙した長良川の戦いで、道三に味方して初陣、早くも、不在の父に代わって大将を務め、籠城戦の末、義龍の軍を退けるが、結局、旧土岐氏の勢力に支えられた義龍が勝利して美濃国国主になり、尾張国の織田信長による美濃侵攻が激しくなって、義龍が防戦に努めるなか、

・ ・ ・ ・ ・ 1558=14歳：父が、美濃国不破の岩手城を攻略し、

大内府内開港1559=15歳：岩手城跡に、菩提山城を築き居城としたのに従い、

桶狭間の戦・1560=16歳：父が死去(実は2年後で隠居説も)して家督を相続して、菩提山城主となり、斎藤義龍に仕えるが、

川中島最激戦1561=17歳：義龍が死去して、跡を継いだ子の斎藤龍興が若年で、家臣団も動揺したため、信長の侵攻が一気に進み、

大村長崎開港1562=18歳：

大村純忠受洗1563=19歳：美濃国新加納での織田軍勢とに戦い、戦術を駆使、斎藤勢を勝利に導くが、主君龍興は酒色に溺れて政務を顧みようとせず、一部の側近だけを寵愛したため、

川中島の戦終1564=20歳：舅安藤守就の軍勢とともに、稲葉山城を襲撃して、一旦は龍興を追い出すが、やがて、龍興を支援する勢力の攻撃によって放棄、北近江の戦国大名浅井長政の客分になって、東浅井郡草野に3,000貫の禄を賜うが、約1年で禄を辞して旧領の岩手へと帰り、浪人となる。美男子だったうえに、武術や剣術に優れ、中国の兵法書を何冊も完読するほど聡明で、軍師としての才能に溢れていて、家臣に登用しようとした信長が、

岐阜楽市楽座1567=23歳：稲葉山城の戦で、斎藤龍興を追い出して、美濃統一を成し遂げると、この戦で一躍名を挙げて、*勧誘を命じた(木下)豊臣秀吉から、三顧の礼で迎えられ、その才を認めて、とりあえず信長直臣となり、

織田信長入京1568=24歳：観音寺城の戦い(箕作城の戦い)に参戦。信長包圍網が敷かれ、信長と浅井長政が敵対関係になると、浅井家臣団との人脈を利用して、主に調略活動で活躍、

石山合戦始・1570=26歳：長亭軒城や長比城を織田方に寝返らせる。姉川の戦いには、秀吉の与力へと転じて軍師となり、

比叡山焼討・1571=27歳：

室町幕府滅亡1573=29歳：小谷城の戦いで、浅井家を滅亡に追い込み、

長篠の戦・1575=31歳：長篠の戦いでは、敵将武田勝頼軍の動きを読むなどして、織田・徳川連合軍の勝利に貢献。

上杉謙信没・1578=34歳：*秀吉の中国攻めの総大将に任じられ、宇喜多氏の備前八幡山城を、調略によって、無血開城させ、京都に赴いて信長報告、賞賛され銀子100両を授けられて播磨へと帰陣する一方、信長に謀反を起こした荒木村重に対して、帰服を呼びかけた盟友黒田官兵衛が有岡城に幽閉され、孝高が村重に加担したと思込んだ信長によって、秀吉に、官兵衛の嫡男長政が処刑を命じられた際、秀吉に偽の首を提出させて匿い、のちに助け出された官兵衛は非常に感謝して、竹中家の家紋を貰い受けるなどしたが、

安土教会許可1579=35歳：*播磨国の三木城を包圍した合戦中、病により、没した。